
健全な男子高生が女になつたら.....

マンタロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健全な男子高生が女になつたら……

【著者名】

マンタロウ

【あらすじ】

妄想エロ男（健全な男子高生）はある日突然女になつてしまつた。
彼の楽しい学園生活が今、始まる。よっしゃあ～体育だあ～

女になつた！？（前書き）

妄想全開、この手の話では以外と少なかつた工口展開を連発！？
まあ一応X指定ではありません（）

女になつた！？

いつもと同じ夏の朝だ。もうすぐ夏休み。俺はいつもこの季節はパンツ一枚で寝ている。

パンツ一枚のまま朝食を食べ、パンツ一枚のまま歯を磨きに洗面所へ向かつた。

前方の体に自分の体が映りだされる。
いつもと同じ高2の割には貧弱な俺の体。
では無く！

いつもと違う、大きく膨らむ“一つの物体”がそこにあった。

先端にはパンクの物が付いている。

俺は今事情があり一人暮らしをしている。
だから誰も俺の姿を確認出来ない。

「こ、これは一体、どうなつているんだ？」

俺は自分の頬をつねつてみる。

痛い。夢じや無い。じゃ、じゃあ……

俺は男であるはずの自分の、膨らんだ胸を揉んでみた。憧れだったなあ～こうやって女性の乳を揉むことが。
勢い良く鼻血を吹き出し、俺はその場に倒れこんだ。

目が覚めた時は、既に学校が始まっていた。

急いで学校に行かなきや……と、思ったが、ヤバイ……俺、今女

の体なんだつた。

どうすればいいのか悩んだ。そしてその前に、あることに気が付いた。
手を股間へ移動させた。

……ねええええ～！！俺のブツが、男の勃起が……ねええ！

確認してみると、初めて見る女性の秘部がそこにはあった。（緻密な描写）やめておこう、未成年のために（）

初めての「ラジャー」！？

どうすれば良い？まずは学校に行くことが大切か？確かに女子生徒の制服は姉が俺の家に置いて行つたような……あつた！

女子として登校してみよう。

え？俺があまり驚いていないように見える？展開が早い？……ククク、フハハハハハ！展開が早いだと？

早くて良いじゃ無いか！ほら、想像してみろ、女として学校に行くんだぞ！ムフフな事しか思いつかねえよ。早く学校行きてえ～この時、得路田^{ヒロタ}吉木^{ヨシキ}17歳は産まれて初めて早く学校へ行きたいと思つたらしい……

でも待てよ……いきなり学校に行つたら怪しいよな、それに俺がいなくなつたら色々不味いよな……それに女物の下着なんて持つて無いぞ。

流石にそれはヤバいよな。

仕方がない。もう下着を買うか。俺は姉の制服を着て、ノーブラのままランジェリーショップへと向かう。

この時間だ。まだやってない店がほとんどだろうが、吉木の家から学校への道のりの間に、朝からやつてる大きなランジェリーショップがあるのだ。

吉木はそこへ向かう。……今は女の体。誰も怪しんでいない。

そう頭では思つても、何故か見られてる様な錯覚に陥る。そして非常に興奮する。

とりあえず俺は下着を何着か選び、それを店員に似合つか聞いて

みる事にする。

何しろブラジャーなんて着けた事が無い。どんなものが良いのか分からないので、店員に聞くしか無い。店員は若い女性だった。

「すいません……これ、私に似合いますか？」

「はい、試着はすみましたか？」

試着？ そういうやしてないな。よし、まずは試着をしてみるか。俺は更衣室へと入る。

しかし、良く考えたら着け方が分からない。とりあえず制服を脱ぎ上半身を露出させる。たわわな胸が、プリンと揺れ俺は自分自身の体に興奮した。

とりあえずブラジャーを着けてみる。少し不格好だが、まあ様になつているような気がしたので、外で待っている店員に聞いてみた。

「こんな感じです」

「あ、お客様にはもっと大きいサイズの方がよろしいかと思います」

そう言つと店員は走つて別のブラジャーを取りに行つた。

しかし……男の時の俺は貧弱な体だが、今の俺は随分凄い体してゐるな。ブラジャーから上乳がはみ出てるや。

しばらくすると店員が戻つて來た。今度は店員も更衣室に入り、あまりに不格好だったからか俺にブラジャーを着けてくれた。驚いたのは、若い女性店員はいきなり俺の胸を揉んできた事だ。

ブラジャーを着けながら俺の胸を揉んで行く。俺はつい声を漏らしてしまった。

「あ、はあん」

女性店員は顔を赤くしたが、手を止める事は無かつた。

暫くして店員は手を止めた。俺に合づプログラジャーを見つけてくれたのだ。ついでに女性物のパンツも買い、俺は店で履いてそのまま学校へと向かひ。

学校へと着くといきなり騒がしかつた。

まあこんな感じだつた。

まず学校に着くといきなり先生に呼ばれ、俺は転入生扱いだつた。そして朝のホームルームで自己紹介をすることになつてしまつたのだ。

「ええ」と私の名前は……田中吉子です。 高校から、親の都合で転校してきました」

とりあえず適当な事を言つて誤魔化した。しかし、なんだこの展開は……てか、俺の存在はどうなつているんだ？

席は一番前の席になつた。すると後ろから思春期まつさかりの男子達の声が聞こえて来る。

♪ヒソヒソ♪

「なあ、吉子ちゃん可愛いよな」

「ああ、それに胸でかくね？」

「Dはあるんじゃないかな？」

「ブラジャーは水色かあー。それにしてもなんであんなにスカート長いんだろ？パンツ見てえー」「

「オイオイ、全部聞こえてるよ……これが本物の女子生徒だつたらどうなつていたんだ？」

と、ここでホームルームが終わりクラスからの質問が浴びせられる。

「田中さんて前の学校で部活何かやつてるの？」

女子生徒からの一言だ。

「ええ」と、水泳部に

これは一応本当だ。男の時に水泳部に入っていた。成績もそこそここのつもりだ。

それからも質問が続いた。

初めての「ラジャー！」？（後書き）

もの凄い速さで物語は進んで行きます。連載を打ち切られるくらいギリギリな描写をしていきたいと思います（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5784a/>

健全な男子高生が女になったら……

2010年10月22日00時54分発行